

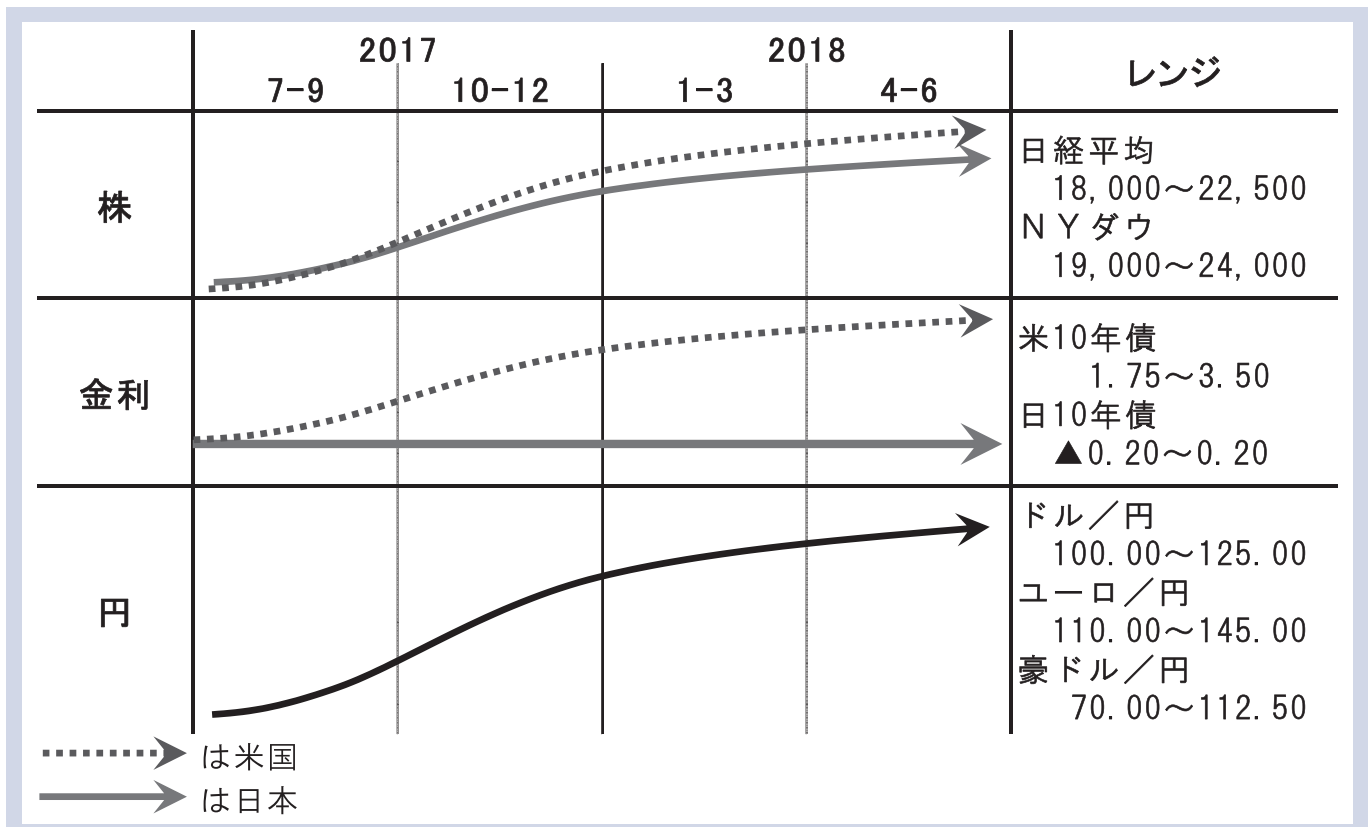
各国経済の6ヶ月見通しと向こう1年間の市場予想

(6月8日時点)

I. 各国経済の6ヶ月見通し

	コメント
① 日本	輸出の持ち直しや在庫調整の進展等を背景に景気は持ち直している。先行きも、輸出増加が続くことに加え、企業収益の改善から設備投資が増加することや、経済対策の効果が発現することが景気押し上げ要因になる。景気は着実な改善を続ける可能性が高い。
② 米国	米国経済は、17年1Qに税還付の遅れなどによって弱い成長になったものの、雇用・所得の増加、資産残高の増加等を背景とした個人消費の再加速や住宅市場の回復持続によって、景気拡大が継続する公算が大きい。景況感の改善や企業収益の拡大を受けた設備投資の増加も加わり、2Q以降経済成長は加速すると見込まれる。
③ 欧州	ユーロ圏経済は、①政治リスクの後退、②世界景気の回復持続、③雇用・所得環境の持ち直しを背景に、緩やかな拡大基調を持続する公算が大きい。ただ、今後、欧州中央銀行(ECB)が金融緩和の段階的な縮小に向けた検討を開始する可能性が高く、緩和マネー縮小による金融環境の変化に注意が必要となる。
④ アジア・新興国	アジア・新興国経済では、世界景気の底入れを反映して外需を中心に回復している。他方、米トランプ政権の政策運営に対する不透明感は資金動向に影響を与えることが懸念されるが、現状は堅調な資金流入が続いている。世界経済の回復を演出してきた中国経済の持ち直しに頭打ち感が出る動きがみられるものの、国際金融市場の落ち着いた展開が続けば、比較的堅調な景気拡大を実現することは可能と見込まれる。

II. 向こう1年間の市場予想イメージとレンジ



(注)記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。